

学校法人 柏 専 学 院

平成 29 年 度 事 業 報 告

目 次

第 1 部 学校法人柏専学院の概要	P 1
1. 設置する学校、学部、学科等	
2. 学生数の状況	
3. 役員、教職員の概要	
4. 理事会開催状況	
第 2 部 事業の概要	P 4
I 新潟産業大学	
1 大学全体	
1. 1 管理・運営	P 4
1. 2 附属図書館	P 6
1. 3 FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及び SD (スタッフ・ディベロップメント)	P 7
1. 4 施設設備	P 9
2 経済学部	
2. 1 教 育	P 10
2. 2 研 究	P 12
2. 3 学生への支援	P 14
2. 4 留学生支援	P 18
2. 5 学生募集及び入学試験	P 21
2. 6 地域貢献・生涯学習	P 22
2. 7 国際交流	P 26
3 大学院経済学研究科	P 27
3. 1 教育及び研究指導の改善	
3. 2 学習・研究の支援	
3. 3 教育の成果	
3. 4 国際交流	
II 新潟産業大学附属高等学校	P28
1. 概況	P28
2. 部活動実績及び進学実績	P28
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ	P32
4. 生徒募集	P35
5. 新規取組事項	P37
第 3 部 財務の概要	P38

第 1 部 学校法人柏専学院の概要

1. 設置する学校、学部、学科等

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 8 0 収容定員 3 3 0
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 6 0 収容定員 2 5 0
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジ ネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 1 0 収容定員 2 0 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 1 6 0 収容定員 4 8 0

2. 学生数の状況

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	8 2	3 0 1
			2 年	8 1	
			3 年	8 6	
			4 年	5 2	
		文化経済学科	1 年	4 0	1 5 6
			2 年	3 7	
			3 年	4 1	
			4 年	3 8	
	合計(大学)			4 5 7	
	大学院	経済学研究科	1 年	4	9
2 年			5		
合計(大学院)			9		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 3 9	3 8 1
			2 年	1 3 6	
			3 年	1 0 6	
	合計(高校)			3 8 1	
総 計			8 4 7		

3. 役員、教職員の概要

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計			評議員	
	8	2	10			20	
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	9 (併任)	30	30		24	28	14
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	20	6	4	30	4	—	—

4. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 人 (現員 8 人) 監事定数 2 人 (現員 2 人)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H29.5.29	8 人	2 人	議題 1.平成 28 年度事業報告 2.平成 28 年度決算 3.平成 29 年度当初予算の一部変更 4.評議員の選任 報告 1.柏崎市による本学公立大学法人化可能性調査 2.大学組合との交渉経過及び今後の対応
第 2 回	H29.5.29	8 人	2 人	議題 1.平成 29 年度当初予算の一部変更
第 3 回	H29.6.28	8 人	1 人	議題 1.学校法人柏専学院給与規程の改正 2.平成 29 年度新潟産業大学の期末・勤勉手当 3.評議員の選任 報告 1.新潟産業大学経営改善計画 (新潟産業大学改革プラン) の進捗管理
第 4 回	H29.9.27	8 人	1 人	議題 1.私学事業団経常費補助金特別補助「平成 29 年度私立大学等経営強化集中支援事業」申請に係る本法人経営改善計画策定及び進捗状況 2.学校法人柏専学院役員報酬の改定 3.諸規程改正 4.新潟産業大学公立大学法人化可能性調査に伴う今後の新潟産業大学及び新潟産業大学附属高等学校の運営形態 報告 1.新潟産業大学創立 70 周年記念事業 2.柏崎市による新潟産業大学公立大学法人化可能性調査

第5回	H29.11.28	8人	2人	<p>議題 1.規程制定 2.大学人事 3.新潟産業大学公立大学法人化に向けた事業計画策定に係る業務委託契約締結</p> <p>報告 1.「新潟産業大学公立大学法人化可能性調査報告を受けて」を櫻井柏崎市長に提出したこと 2.大学組合との交渉経過及び今後の対応</p>
第6回	H30.1.29	8人	2人	<p>議題 1.新潟産業大学学長の辞任 2.柏崎市への「魅力あふれる選ばれる大学づくりのための事業計画」の提出 3.規程改正 4.新潟産業大学附属高等学校校長の選任 5.高校人事</p>
第7回	H30.3.6	8人	1人	<p>議題 1.新潟産業大学学長の選考 2.新潟産業大学附属高等学校校長の選考 3.新潟産業大学経済学部長の任命 4.人事(大学、高校) 5.諸規程改正</p> <p>報告 1.公立大学法人化に対する市長判断 2.私学事業団「経営強化集中支援事業」の本学選定</p>
第8回	H30.3.28	8人	1人	<p>議題 1.平成30年度事業計画 2.平成29年度第1回補正予算 3.平成30年度当初予算 4.新潟産業大学大学院研究科長の任命 5.理事、監事、評議員の選任</p>
第9回	H30.3.28	8人	1人	<p>議題 1.平成30年度事業計画 2.平成29年度第1回補正予算 3.平成30年度当初予算 4.規程改正</p> <p>報告 1.平成30年度入試状況 2.平成29年度卒業生就職、進路状況</p>

第2部 事業の概要

I 新潟産業大学

1 大学全体

1. 1 管理・運営

実施項目	平成 29 年度実施内容
(1)大学の管理・運営	<p>①平成 29 年 11 月 10 日 新潟産業大学創立 70 周年記念事業 開催 記念式典・記念講演会（文部科学審議官 小松親次郎氏）</p> <p>②新潟産業大学 中期事業計画の策定 「魅力あふれる選ばれる大学づくり」を目指し、新潟産業大学 「Revival Vision2020」「Revival Plan2020」を作成、平成 30 年 1 月 30 日 柏崎市へ提出した。</p> <p>③大学評価（認証評価）を受審 大学基準適合 2018(平成 30)年 4 月 1 日～2021(平成 33)年 3 月 31 日まで（評価結果を大学ホームページに公表した）</p> <p>④教職員の意識改革の推進 ・平成 29 年 4 月 5 日 全教職員集会開催 「財務状況に関する説明会」（平成 30 年度当初予算） ・平成 29 年 9 月 22 日 全教職員集会開催 「財務状況に関する説明会」（平成 29 年度決算）</p> <p>⑤その他 学校法人柏専学院内部監査規程にもとづき内部監査を実施した。</p>
(2)財務の改善	<p>1) 学生確保による収入増 ①平成 30 年度春学期入試及び平成 29 年度秋学期入試の結果は以下 のとおりである。「2. 5 学生募集及び入学試験」を参照。</p> <p>②モンゴル国並びに中国内モンゴル自治区において海外秋学期入試 を実施し、留学生を受入れた。詳細は、「2. 5 学生募集及び入学 試験」を参照。</p> <p>2) 外部資金の獲得 ①私学事業団特別補助金の獲得 私立大学等経常費補助金特別補助「私立大学等経営強化集中支援 事業」の採択により 8,268 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>②科学研究費補助金（科研費）採択の取組み強化 詳細は「2.2 研究（2）」を参照</p> <p>③柏崎市私立大学学生募集支援事業補助金</p>

	<p>事業費 16,110 千円に対し 12,042 千円の補助金交付を受けた。</p> <p>3) その他の収入増</p> <p>① 寄付金収入の増 寄付金(「新潟産業大学基金」、約 1,212 千円を受け入れた。</p> <p>② 不要資産の売却 新潟県中越沖地震により取り壊した大学国際交流会館跡地(柏崎市鯨波)は売却には至らなかった。</p> <p>4) 経費の節減</p> <p>① 期末手当、勤勉手当の減額等により人件費を削減した。</p>
(3)情報発信	<p>1) 効果的な情報発信 詳細は「2.5 学生募集・入学試験(5)」を参照。</p> <p>2) 多様な情報ツールの活用</p> <p>① ICTの活用</p> <p>ア. Webサイトの改善に関するコンサルティングを平成28年度から継続して委託し、月に1回程度のミーティングおよび解析データの提供を受けた。</p> <p>イ. 特設コンテンツとして、地域と大学をビジュアルで繋ぐ「The SANDAI WORLD」を公開した。</p> <p>ウ. Instagram上において、「The SANDAI WORLD」コンテンツのオフショットを展開した。</p> <p>② その他の媒体の活用 新聞、ラジオ、交通機関広告、広報かしわざき等の媒体の他、教員とゼミナール学生が制作したパンフレット等により情報発信した。</p>

1. 2 附属図書館

事業項目	平成 29 年度実施内容									
(1)利用者への支援	<p>①情報コンテンツを高めるデータベースの充実 導入済の電子ジャーナルを新任教員へ周知するなど利用促進にも努めた。</p> <p>②一般市民や中高生への図書館開放 例年どおり中高生への夏休み図書館開放を行うとともに、通年で学外者への図書館開放を行った。交通の利便性から中高生の利用は伸びなかったが、一般市民の利用は定着し、郷土資料を目的とした利用者も増加傾向となった。</p> <p>③利用者数及び貸出冊数の増 カフェ利用や学習利用等で来館者は増加した。特集コーナーの展示、SNS を利用した情報発信、掲示等を行ったが、貸出冊数は前年度より減少に転じた。</p> <p>④図書館の使い方の周知 新入生ガイダンス時、大学図書館の概要説明や図書館活用術、利用上の留意事項などの説明を行った。</p>									
(2)資料の整理・整備	<p>①開架図書の整理 配架図書の新陳代謝を図る観点から、出版年が古い図書を開架書庫に移動させるなどの図書整理を行った。また、複数冊ある資料及び内容が陳腐化した資料を中心に除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を進めた。</p> <p>②新刊本の選書と配架促進 地域貢献の専門教育の参考書として、まちづくりに関する図書の選書を積極的に行った。また、学生の進路状況を参考にし、就職活動等でニーズのある図書の選書に努めた。</p> <p>③地域研究に資する郷土資料の収集を継続的に行った。</p>									
(3)資料の管理・保存	<p>①所在不明図書等の削減 返却遅延者管理の徹底と蔵書点検の実施で、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。平成 29 年度末の不明本冊数は 26 冊であった。</p>									
(4)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00（長期休業期間中 9:00～17:00） （H29.11 月から、午後からの授業がない水曜日のみ 18:00 閉館とした）</p> <p>②入館者延べ人数： 24,052 人（対前年度比 510 人増） カフェスペースの利用や DVD 利用、学習利用、学外利用者などの増により来館回数が増となった。</p> <p>③資料提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出数： 2,538 冊（前年度から 516 冊減） ・貸出延べ人数： 941 人（うち、学生 604 人） ・他大学図書館等との相互協力による資料依頼・資料提供件数 <table border="1" data-bbox="584 1688 1137 1805"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>32</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>43</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	32	31	受付	43	16
	文献複写	相互貸借								
依頼	32	31								
受付	43	16								

1. 3 FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の推進	<p>①授業改善アンケートの実施 春学期（平成 29 年 6 月 19 日～6 月 23 日）と秋学期（平成 29 年 11 月 13 日～11 月 17 日）の 2 回、授業アンケートを実施した。 アンケート結果については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ（一般講義、外国語、ゼミ演習等、区分毎に集計）」「クロス集計結果」を本学ホームページに掲載し一般に公開した。また、「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」を学内公開した。「自由記述欄」への回答は、各々担当教員に伝えた。 また、アンケートの結果、高評価であった 5 科目に対し「受講生が選ぶベスト授業賞」が学長から授与された。一方、評価の低い授業に対しては「授業改善計画書」の作成を義務付け、これを学内掲示した。 以上、授業アンケート結果を踏まえ、各々授業改善へ取り組むよう学長から指示がなされた。</p> <p>②教員による相互授業見学及び意見交換会の開催 相互授業見学は、平成 29 年 10 月 16 日（月）から 10 月 27 日（金）の期間に実施した。FD 委員会が見学授業を指定し、全教員に見学を義務付けた。 また、見学後は、全教員から「見学レポート」を提出させ、「見学レポート」に基づいて、全教員による「授業見学意見交換会」を平成 29 年 11 月 22 日（水）に開催（全教員 26 人のうち 20 人出席。）し個々の授業改善に繋げた。</p> <p>③外部 FD 研修会への参加 ■研修名：高等教育に求められる質保証を考える ～学修成果の可視化による教育改善と卒業時の質保証～ 主 催：大学教育再生加速プログラム採択校による共同開催 テーマⅡ「学修成果の可視化」採択 8 校 テーマⅤ「卒業時における質保証の取組の強化」採択 19 校 日 時：平成 30 年 2 月 16 日（金） 場 所：品川 THE GRAND HALL（東京都） 参加者：梅澤精 FD 委員長 ■研修名：2017 年度第 23 回 FD フォーラム「FD のこれまでと、これから～多様な角度から FD について考える～」 主 催：（公財）大学コンソーシアム京都 ※後援…文部科学省・京都府・京都市 日 時：平成 30 年 3 月 3 日（土）～4 日（日） 場 所：京都産業大学（京都市） 参加者：宇都宮仁専任講師</p> <p>④新任教員研修会の実施 開 催 日：平成 29 年 4 月 12 日（水） 16:30～ 指導教員：梅澤精副学長・FD 委員長 阿部雅明副学長・経済学部長 沼岡努経済学部文化経済学科主任</p>

	<p>片岡直樹教務委員長 新任教員：上野るみ、岡田華奈、春日俊雄、郷香野子</p>
<p>(2) SD (スタッフ・ ディベロップメント) 研修の推進</p>	<p>①各種レベルアップ研修への職員派遣 IT ツールを活用したヘルスケア活動の考え方と取組事例 ■開催日：平成 30 年 3 月 28 日 10:00～ 参加数：1 人 (医務室担当者)</p> <p>②新潟工科大学・新潟工業短期大学との合同SD研修会 ■開催日：平成 29 年 8 月 22 日 13:30～15:00 テーマ：「地域経済分析システム RESAS の使い方」 参加数：34 人(新潟工科大学・新潟工業短期大学含む)</p>

1. 4 施設設備

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)キャンパス・アメニ ティーの改善	①インターネット環境を整備のため、平成 29 年度において、学外への回線容量を拡大した。
(2)地域への施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成 29 年度は、5,045 人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <p>① 体育館 利用日数：延べ 105 日 ② テニスコート 利用日数：延べ 129 日 ③ 講堂 3 日 ④ 教室他 8 日 ⑤ 駐車場 2 日</p>

2 経済学部

2.1 教 育

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1) 教育研究体制の改革	<p>①地域活性化に貢献する学部・学科・コースの検討 公立大学法人化を念頭に「学長・副学長等会議」において、地域活性化に貢献する学部・学科・コースの再編成を検討し複数案を立案した。</p>
(2) 教育内容・方法の改善	<p>①地域課題に取り組む教育の実践 「ゼミナール」を中心に、実際に現地に赴き学習するフィールドワーク形式の授業を延べ 54 の授業（延べ約 640 人）で実践した。 ※参考（過年度の実践状況） 平成 28 年度は延べ 49 の授業（延べ約 500 人） 平成 27 年度は延べ 21 の授業（延べ約 210 人） 平成 26 年度は延べ 26 の授業（延べ約 150 人）</p> <p>②地域活性化に資する専門科目の充実 1 年次からの専門ゼミナールとして「地域理解ゼミナール」（1、2 年次専門科目）の新設を検討した。これを、3、4 年次の「ゼミナール」（「地域活性ゼミナール」への改称も検討した。）に繋げ、地域をおこす人材育成の教育効果を高めようとしたものである。平成 31 年度入学生からの実現に向け更なる検討に取り組む。</p> <p>③教育課程の体系性明示 科目体系をわかりやすく表示した「履修モデル」、「科目ナンバリング」及び「カリキュラム・ツリー」について、履修ガイダンス等において、学生への説明周知を行った。特に、新入生に対しては「カリキュラム・ツリー」を利用し、大学での学びのイメージ付けを行うことができた。</p> <p>④学習達成度把握等の検討 平成 29 年 9 月 13 日経済学部教授会で「新潟産業大学グレードポイントアベレージ運用規程」を新設した。平成 30 年度から、全学年がグレードポイントアベレージ（GPA）運用対象となる（※平成 26 年度以前の入学者除く。）ことから、GPA 数値を学習達成度把握の重要指標の一つとして学修指導に活用する。</p> <p>⑤学修時間増の取組 「学生に対する授業アンケート」による自学自習時間の実施状況を調査した。前年度に比し、自学自習に取り組む学生が増え、2 年連続での自学自習に取り組む学生が増加していることが分かった。</p>

<p>(3) リメディアル教育の改善</p>	<p>①基礎科目の強化 基礎科目の「基礎ゼミナール」「生活数学」等において、大学生としての基礎知識やプレゼンテーション能力習得のための教育に取り組んだ。また、担当教員による授業改善の協議を行った。</p> <p>②入学前教育の実施 新入生が大学での学修に円滑に移行できるよう、日本人入学予定者(入試合格者)に対する入学前教育(外部専門業者への委託契約による。)を実施した。</p>
<p>(4)中途退学者の予防</p>	<p>①授業欠席者ケアの実施 経済学部教授会で決定した「学内授業出欠管理システム」に基づき、連続欠席学生を早期発見し、担任教員またはCLA(キャンパスライフアドバイザー)が、欠席理由を確認し必要な指導を行った。 また、保護者との「個別面談会」等においても授業出欠情報を提供し、欠席の多い学生のケアに取り組んだ。なお、面談出席保護者だけではなく、全保護者に対し成績表及び時間表を送付し、協働して学生ケアに取り組む働きかけを行った。</p>

用語：「カリキュラム・ツリー」

入学から卒業までの各年次における学びの流れをツリー型のマップでわかりやすく図示したもので、本学での学びを俯瞰できる。平成 29 年度キャンパスガイド「NSUnavi2017」から、これを掲載する。

用語：「GPA」(文部科学省ホームページより)

アメリカで行われている学生の成績評価方法の一種。その一般的な取扱いの例とされているものは、以下のとおり。

1. 学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階(本学は S、A、B、C、D)で評価し、それぞれに対して 4、3、2、1、0 のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA、グレード・ポイント・アベレージ)を出す。
2. 単位修得は C でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。
3. 3 セメスター(1 年半)連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては退学勧告がなされる。ただし、突然勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。

なお、このような取扱いは、1 セメスターに最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成績評価して行われるのが一般的である。

2. 2 研 究

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)地域に根ざした研究の促進	<p>①柏崎研究所 平成 29 年 10 月 15 日に『柏崎学の可能性』－柏崎の未来に向けて－をテーマに柏崎研究所の主催（共催 柏崎市教育委員会、新潟県立翔洋中等教育学校）で、柏崎研究所設立記念 第 1 回柏崎学シンポジウムを柏崎市産業文化会館において開催した。参加者は 150 名。アンケート評価は概ね好評であった。更に今後への継続的な展開を望む声が寄せられた。</p>
(2)紀要の発行	<p>①経済学部紀要第 49 号 を平成 29 年 7 月に発行した。 研究テーマ 5、執筆者 5 人。</p> <p>②経済学部紀要第 50 号 を平成 30 年 2 月に発行した。 研究テーマ 8、執筆者延べ 13 人。</p>
(3)研究業績等の公開	<p>平成 28 年度自己点検・評価において、平成 18 年以降の研究業績をまとめ、ホームページ上に公開した。</p>
(4)公的研究費の獲得	<p>①平成 29 年度科学研究費助成事業(科研費)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学採択分 (H29 年度配分金額) ア. 研究代表 阿部 雅明 基盤研究 (C) (2,340 千円) 研究分担者：宇都宮 仁 平野 実良 イ. 研究代表 郷 香野子 研究活動スタート支援(1,170 千円) ウ. 研究代表 岡田 華奈 研究活動スタート支援(1,300 千円) <p>・他大学採択分 (H29 年度配分金額)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 研究分担者 高橋 真一 (神戸大学 基盤研究 (B)) (390 千円) <p>②科研費添削指導 科研費採択増に向け以下の事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 10 月科研費申請用研究計画書の添削・アドバイス指導 添削受講者数 1 人 (事業委託先：ロバストジャパン) <p>③内田エネルギー科学振興財団助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 技術系グループ 代表 藤井 信行 <ul style="list-style-type: none"> ・水素燃料電池の実演と講義、分光シートを用いた光万華鏡の作製等の工作教室 ・講演会「低炭素社会」を目指して私たちができること イ. アブドゲニィ アブドレヒミ 環境・エネルギーに関する知識普及の新たな試み「サイエンス教室 in コミセン」 ウ. 岡村 宜城 現役 J1 選手による講演会の開催 <p>エ. 附属モンゴル文化研究所 第 2 回モンゴル文化フェスタ in かしわざき (※2 回に分けての開催)</p>

<p>(5)国際的研究の推進</p>	<p>①モンゴル文化研究所</p> <p>モンゴル文化に関する(1)学術調査研究関連ではモンゴル研究蔵書整備(約4,000冊)を研究所内に開架図書として配置した。研究蔵書に関するモンゴル研究資料のデータベース構築中である。(2)地域住民への各種イベントを通じた国際理解・地域貢献については「第2回モンゴル文化フェスタ in かしわざき」を通して推進した。「第2回モンゴル文化フェスタ in かしわざき(10月学園祭中と雨天の為12月アルフォーレと2回実施)」では、</p> <p>1) モンゴル相撲大会 2) モンゴル民俗芸能 3) ゲル展示 4) モンゴル写真展示 5) モンゴルの遊戯体験 6) モンゴル料理試食会、などを地域の住民を交え、留学生を中心に実施した。</p>
--------------------	---

2. 3 学生への支援

事業項目	平成 29 年度実施内容																																																																						
(1)学生行事・学生活動支援	<p>①学園祭など学生主催行事に対する支援</p> <p>ア. 学友会・学生行事実行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。(月に4回実施)</p> <p>イ. 学園祭の企画・運営について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。</p> <p>ウ. 学生企画の「スポーツ大会(バドミントン)」や「クリーンデー柏崎 in 産大」、「クリスマスパーティー」などに助言を行った。</p> <p>②公認部・サークル活動の活性化</p> <p>ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。</p> <p>イ. 新年度ガイダンス及び1年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の意義を説明した。</p> <p>③学生相談の充実</p> <p>ア. 学生課医務室職員(看護師・保健師)が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を実施した。</p> <p>イ. 学校医(精神科医師1人)と専門医(心身医療科医師1人)によるカウンセリングを毎月3~5回実施した。</p> <p>ウ. 基礎ゼミ担任とCLA協働で学生生活個別面談を実施した。</p> <p>エ. 全教員が「オフィスアワー」を実施した。</p> <p>オ. 「学生生活アンケート」や「学生意見箱」により学生からの意見・要望収集を行った。投書に対しては学生掲示板に回答を掲示した。</p> <p>カ. 学生の健康保持増進を図るため既設喫煙所を廃止し、屋外駐輪場奥に臨時喫煙所を設けて構内全面禁煙(平成30年実施予定)への啓蒙活動を行った。</p>																																																																						
<p>(2)経済的支援及び学費軽減</p> <p>※外国人留学生については「6. 留学生支援」を参照。</p>	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。</p> <p>②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。</p> <p>③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p>【表】平成29年度に学費軽減を受けた学生数</p> <table border="1" data-bbox="528 1496 1401 2018"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">平成29年度の学年→</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">学業成績優秀者</td> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(4年間)</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(2年間)</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(2年間)</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(1年間)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>授業料25%減免(1年間)</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">スポーツ・文化活動</td> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>—</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(4年間)</td> <td>—</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(2年間)</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>授業料半額減免(2年間)</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度の学年→						1年	2年	3年	4年	経済的理由	授業料半額減免	4	4	4	5	学業成績優秀者	授業料全額免除(4年間)	—	2	4	1	授業料半額減免(4年間)	—	5	4	0	授業料全額免除(2年間)	2	—	—	—	授業料半額減免(2年間)	2	1	—	—	授業料半額減免(1年間)	1	3	4	3	授業料25%減免(1年間)	1	—	—	—	スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	—	8	5	7	授業料半額減免(4年間)	—	14	17	0	授業料全額免除(2年間)	20	0	2	0	授業料半額減免(2年間)	13	12	2	5
		平成29年度の学年→																																																																					
		1年	2年	3年	4年																																																																		
経済的理由	授業料半額減免	4	4	4	5																																																																		
学業成績優秀者	授業料全額免除(4年間)	—	2	4	1																																																																		
	授業料半額減免(4年間)	—	5	4	0																																																																		
	授業料全額免除(2年間)	2	—	—	—																																																																		
	授業料半額減免(2年間)	2	1	—	—																																																																		
	授業料半額減免(1年間)	1	3	4	3																																																																		
	授業料25%減免(1年間)	1	—	—	—																																																																		
スポーツ・文化活動	授業料全額免除(4年間)	—	8	5	7																																																																		
	授業料半額減免(4年間)	—	14	17	0																																																																		
	授業料全額免除(2年間)	20	0	2	0																																																																		
	授業料半額減免(2年間)	13	12	2	5																																																																		

	授業料半額減免（1年間）	0	0	4	5
	授業料 25%減免（1年間）	0	—	—	—
	合計 164	43	49	46	26
	<p>④大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。</p> <p>⑤日本学生支援機構貸付型奨学金第1種 10人・第2種 19人、民間団体（公益財団法人古泉育英財団）給付型奨学金 2人が採用された。</p>				
(3)学外団体との連携	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援 部活動（水球部、卓球部、サッカー部、ライフセービング部、バスケットボール部、芸術文化部、写真部、茶道部、書道部、吹奏楽部）と地域の団体や小中高校等との合同練習や連携活動を支援した。</p> <p>②父母の会及び校友会との連携支援 ア．父母の会総会及び支部総会開催時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、保護者向けの「学生就職ガイダンス」を実施した。 イ．校友会会報の制作に協力した。</p> <p>③新潟工科大学との交流支援 柏崎市民有志による2大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を学友会学生と教職員が協働で行った。</p>				

<p>(4)就職支援</p>	<p>①5年連続就職率100%を達成した。(日本人学生) 就職希望率については、86.9%と目標の90%を下回る結果となったが、全国4大平均就職希望率77.9%(H30.2.1現在)を大きく上回り、概ね良好な結果を残せたものと判断する。</p> <p>②柏崎・刈羽管内並びに県内企業へのインターンシップの奨励と地域に定着する就職者数の増加を目的に、本学キャリア基幹科目において以下の事業を行った</p> <p>ア. 授業科目「キャリアデザインⅠ」(1年生対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所見学2社(ニッカイ米山、柏崎市消防本部) ・管内5事業所の担当者によるパネルディスカッション(ブルボン、柏崎市消防本部、柏崎信用金庫、柏崎商工会議所、泚山会、柏陽鋼機) <p>イ. 授業科目「キャリアデザインⅡ」(2年生対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内・県内積極採用企業6社の担当者による座談会形式の業界研究会(アクシアルリテイリング、ワタナベグループ、AOKI、金井度量衡、ホシザキ北信越、スズキ自販新潟) <p>ウ. 授業科目「キャリアデザインⅢ」(3年生対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業で働く入社5年目までのOB/OGによる就職体験談(AOKI、金井度量衡、ホシザキ北信越、スズキ自販新潟) <p>③キャリアポートフォリオの活用について「キャリアデザインⅠ」の授業において指導を行うとともに、受講者全員に対する個別面談を実施し、学生個々の目標建てについてアドバイスを行った。</p> <p>④学生の付加価値づくりとして各種講座を実施した。特に簿記講座については、昨年度整備した支援体制の元、3級受講者の2級挑戦を促した。結果として受講者の大幅な増加には至らなかったが、受講者の検定合格率は全国平均25.5%を上回る33.3%となり一定の効果を確認できた。</p> <p>⑤留学生の就職希望者が少なかったため、留学生就職支援を目的とした講座の実施は見送った。例年通りの個別指導の徹底により、留学生就職希望者3名全員が就職を果たした。</p>
----------------	---

学生の資格・検定等の取得支援を以下のとおり実施した。

1. 対策講座の実施

①日商簿記検定 3 級講座	全 1 回 (延 40 コマ)	受講者数	延 6 人
②日商簿記検定 3 級直前講座	全 1 回 (延 14 コマ)	受講者数	延 3 人
③日商簿記検定 2 級講座	全 1 回 (延 107 コマ)	...受講者数	延 6 人
④経営学検定講座	全 2 回 (延 12 コマ)	...受講者数	延 16 人
⑤MOS 講座	全 4 回 (延 40 コマ)	...受講者数	延 12 人
⑥TOEIC 対策講座	全 1 回 (延 10 コマ)	...受講者数	延 6 人
⑦公務員講座	全 1 回 (13 コマ)	...受講者数	延 31 人

2. 検定試験の学内実施

①中国語検定	全 3 回	...受検者数	0 人
②経営学検定	全 2 回	...受検者数	延 17 人
⑤ERE 経済学検定	全 2 回	...受検者数	延 2 人

3. 資格等取得奨励奨学金の給付

7 人に奨学金を給付した。給付を受けた学生の内訳は、「日商簿記検定」2 級 1 人、「全経簿記能力検定」上級 1 人、「日商簿記検定」3 級 3 人、「秘書技能検定」2 級 1 人、「ビジネス実務法務検定」3 級 1 人だった。

	<p>平成 29 年度入学生から連帯保証システムを、賃貸住宅保証と多言語による生活サポートのサービスが受けられるように改善した。</p>
<p>(2)経済的支援</p>	<p>①私費外国人留学生授業料減免 留年者を除く私費外国人留学生で、経済的理由による減免申請の許可が認められた留学生春学期入学者 142 人、秋学期入学者 15 人の授業料を 40%減免した。</p> <p>②日本語能力試験合格者（N1・N2）の学費減免 2016 年第一回日本語能力試験 N1、N2 に合格した外国人留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。なお、減免率は、授業料において N1・N2 合格者とも 50%減免。教育充実費において N1 合格者全額免除、N2 合格者 40%減免である。 2016 年第二回日本語能力試験からは減免方式を廃止し、給付方式に変更することを周知した。</p> <p>③日本語能力試験合格者給付金支給 2017 年度給付金支給申請者 N 1 : 2 名、N 2 : 17 名</p> <p>④私費外国人留学生への学習支援金を給付 2、3 年生において、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）上位 5 人に対して、学習支援金を給付した。</p> <p>⑤新入学留学生全員に住居費補助及び通学費等補助を給付 日本での学習及び生活を円滑に始められるようにするため、新入学留学生全員に住居費補助と通学費等補助を給付した。</p> <p>⑥外国人留学生向け宿舎の情報提供 アパート物件情報の収集時に、留学生入居の可否を問い合わせ、45 件の入居可のアパート情報を新入学の留学生に提供した。</p> <p>⑦資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示で行うとともに、年 2 回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流支援

新入留学生歓迎会（観桜会）をはじめ、市内企業現地研修（株式会社ブルボン・株式会社阿部建設）を通して市内企業の事業実態を知ってもらった。また、県内研修旅行、新年会&送別会を開催し交流を深めた。

②キャンパス内国際理解文化ウィーク

留学生の出身国（地域）の歴史・文化を他地域の学生達に伝える異文化交流を推進するため、日本・中国・モンゴル・ベトナム・韓国の各国文化の情報発信を延べ5週間に亘り実施した。

③地域社会及び地域の小中学校との国際交流支援

留学生が地域の文化活動団体の行事や小・中学校における総合学習授業などに積極的に参加し、異文化相互交流を促進するよう支援した。

【地域における国際交流の実績】

	派遣先	参加留学生数
6月18日	高田コミセン	5人
7月11日 7月12日	柏崎第一中学校	10人 (述べ)
7月20日	新潟産業大学附属高等学校	2人
10月15日	上軽井川町内会敬老会	1人
10月29日	高田コミセン祭り	7人
11月17日	刈羽村小学校全学年	6人
1月17日	北鯖石小学校全学年	6人
12月30日～1月1日	長岡市小国町大久保邸ホームステイ	2人

2. 5 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 29 年度実施内容																								
(1)地域（新潟県内）からの学生確保	①オープンキャンパスの充実 【省略】 ②高校訪問等の内容・方法の改善 【省略】 ③新潟県内高校募集担当の新規委嘱 【省略】 ④新潟産業大学附属高等学校「ブリッジプログラム」の再開 【省略】																								
(2)スポーツ推薦入試による学生確保	①強化指定部の学生募集 【省略】																								
(3)外国人留学生の確保	①海外留学生入試 【省略】 ②国内在住留学生入試 【省略】																								
(4)社会人学生の確保	①聴講生等への働きかけ 【省略】																								
(5)ホームページの改善	①入試情報ページの改善 【省略】																								
(6)学生募集目標値の達成状況	(表) 平成 29 年度春学期入学試験の募集目標と結果 (単位：人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>附属高校（全入試区分に亘る。）</td> <td>30</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試</td> <td>40</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>スポーツ推薦入試</td> <td>30</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>国内在住留学生入試</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>海外留学生入試</td> <td>20</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>社会人入試</td> <td>若干名</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td>140</td> <td>115</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	結果	附属高校（全入試区分に亘る。）	30	13	AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試	40	38	スポーツ推薦入試	30	27	国内在住留学生入試	20	22	海外留学生入試	20	14	社会人入試	若干名	1	合計	140	115
	目標値	結果																							
附属高校（全入試区分に亘る。）	30	13																							
AO+指定校+自己推薦+一般入試+センター利用入試	40	38																							
スポーツ推薦入試	30	27																							
国内在住留学生入試	20	22																							
海外留学生入試	20	14																							
社会人入試	若干名	1																							
合計	140	115																							

2. 6 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)地域連携センター事業	<p>①地域活性化事業の推進 「柏崎信用金庫・新潟産業大学連携協定」の調印 ・6月13日、相互の発展と地域と地域産業の活性化に寄与するために協定を締結した。本協定に基づく事業として、地域の課題解決ニーズと本学の教育研究シーズの接合を検討した結果、現在同庫職員と本学教員による RESAS の活用に関する共同研究を行っている。</p> <p>②生涯学習事業の推進 正規授業を一般に開放する「聴講講座（有料）」を実施し、地域に学びの場を提供した。 春学期は 85 講座を開放して 26 講座に聴講があり、秋学期は 72 講座を開放し 21 講座に聴講があった。柏崎・刈羽以外の地域に対する聴講講座案内は、ダイレクトメール、ホームページ掲載等により行い、併せて「新潟産業大学生涯学習友の会」への加入勧誘を図り、会員数は平成 30 年 3 月末時点で 25 人となった。また、平成 29 年 10 月 8 日の学園祭開催時に大学キャンパスにて毎年恒例の「友の会意見交換会」を開催した。 ア. 聴講講座（春） 26 の講座（1 講座 15 回）に延べ 48 人の聴講生があった。 イ. 聴講講座（秋） 21 の講座（1 講座 15 回）に延べ 37 人の聴講生があった。 * 「TOEIC 受検対策聴講講座」のみ 10 回授業。受講者延べ 37 人。</p> <p>④柏崎市との連携講座実施 柏崎市が主催する「かしわざき市民大学」等において、市民や地域社会の文化的活性につながる講座を開講した。（4 講座・受講者延べ 107 人）</p> <p>⑤その他の公開講座実施 ・「公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団」の助成金による講座を開講した。（9 講座）</p> <p>④地域活動への参加 ぎおん柏崎まつり参加 7月25日、ぎおん柏崎まつり二日目の「たる仁和賀パレード」に、「新潟産業大学御輿」を出し、学生・教職員計 65 人が参加した。この他にも地域連携センターが窓口となり、学生ボランティアの派遣等を行い、地域や学外団体からの要請に積極的に対応した。教員による講演会は 26 回、教員や学生のイベント参加は 49 回である。</p>
(2)青少年国際経済人育成事業（新潟県ロータリークラブ寄付金原資）	<p>①学生によるラジオ番組放送 毎月 3 回金曜日の 19 時から 20 時の時間帯で、本学放送部の学生部員の企画・制作・出演による生番組を放送した。</p> <p>②「地球くらぶ」（国際的教養体験イベント）の開催 中国・モンゴル・ベトナムの留学生が講師となって、児童クラブに通う小学生を対象に、外国文化や言語などを楽しく学ぶイベントを実施した。</p>

	<p>8月21日(月) 9:15~11:30 刈羽学童保育 参加児童80人 13:00~15:00 北条児童クラブ参加児童30人</p> <p>③「大学生、高校生の情報発信力向上講習会及び演習プログラム」の実施 主に大学生を対象に、一部授業において、デザインソフトの操作法や地域活性化につながるコンテンツ制作に関する内容の講義、演習を実施した。また、大学地域連携活動に係るチラシ、パッケージ等のデザイン依頼を受けた学生たちに個別指導を実施した。 地域に発信した制作物は下記のとおりである。 ・「産大生と地域のかけ橋 ローカレッジ」Vol.6 ・「産大生と地域のかけ橋 ローカレッジ」Vol.7 ・野菜応援プロジェクトの企画・チラシ作成 ・大学地域コラボ商品「良寛と貞心尼の歌物語」パッケージ、チラシ ・柏崎鮭のふるさと公園「命をつなげ！谷根川の鮭物語」ポスター、チラシ</p> <p>④地域通貨事業の推進 様々なボランティア活動を行った学生に地域通貨を配付し、柏崎市内の提携商店での購買に繋げた。また、「まちかど研究室」に稲作と風輪通貨に関する説明パンフレットや活動写真を展示することにより、市民への本事業の周知に努めた。さらに、地域通貨事業の原資となる米菓等をえんま市で販売し商店街活性化の一助とした。</p> <p>⑤海外・国内研修の支援 外国文化視察研修で台湾へ、日本文化視察研修で東京を訪問した。訪れた場所で直接文化を体験し、文化産業及び経済産業の現状を視察した。 ・外国文化経済視察研修(台湾)(9月15日~22日) 8日間の研修に、学生等12人が参加した。故宮博物院、龍山寺等の観光地や本学と学術交流協定を締結している大学等を訪問し、異文化交流を行った。 ・日本文化経済視察研修(東京)(9月8日~11日) 4日間の研修に、学生8人が参加し、文化遺産や文化施設を視察した。</p> <p>⑥「大学は美味しい!!フェア」への参加(5月18日~23日) 新宿高島屋で開催された『大学は美味しい!!』フェアに教職員7人、学生約25人が参加し、大学と地域商店との共同開発商品を販売し、本学の活動及び立地する柏崎地域について広くアピールした。</p>
(3)連携協定に基づく取り組み	<p>①「柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定」にもとづき、つぎの平成29年度委託事業を受託した。</p> <p>ア.「柏崎の観光の魅力の発見・発信のための調査研究と活動」(金教授) ・「谷根川の鮭をテーマとする観光資源の可能性の探求とPR活動」については、「さけ放流式」「谷根川さけの森づくり植樹ボランティア」「青海川海岸清掃」に学生たちと参加した。また谷根川の鮭と海岸をテーマとするポスターやチラシを作成するとともに、学生・市民による写真展を本学とさけのふるさと公園で開催した。 ・「西山ふるさと公苑と田中角栄記念館の日中交流と中国文化体験施設としての活用性の探求」については、同施設をたびたび訪問し関係者と情報交換を行い、同施設の活用について具体的な提案を行うこととなった。</p>

- ・「柏崎の椎谷海浜公園に江戸後期に漂着した標木に関するモニュメントを建立する計画の PR と推進」については、柏崎市都市政策課や博物館、関係町内会等を訪問して説明及び意見聴取と PR 活動を行った。更に、長岡市の会社にモニュメント設置の見取り図と見積もりを提示してもらった。
- ・「良寛と貞心尼の歌物語ツアーの実現に向けての探求」については、ガイドマップを製作して柏崎・出雲崎・長岡の観光施設に設置した。また、新潟県柏崎地域振興局から「良寛と貞心尼をテーマとした広域観光ルート開発のための調査研究業務」を受託し、市民参加によるモニターツアーを実施しアンケート調査を行った。

イ. 「柏崎野菜応援プロジェクト」(梅比良教授・権田講師)

- ・柏崎市矢田地区を中心に栽培されている「マコモタケ」を取り上げ、学生が PR や浮遊活動を行った。まず、オリジナルキャラクター2 体を制作し、ランチフェアのメニュー等に活用した。次に、市内の和食店とカレー専門店の協力を得て、マコモタケを使用したメニューを開発し、かしわざき地場産ランチフェアで提供した。また、マコモタケに関する 4 ページのリーフレットを制作し、学内で配布した。

ウ. 「市街地商店街の空き店舗活用事業「まちかど研究室」の展開
「魅力発信事業」(新潟産業大学・新潟工科大学共同受託)

両大学学友会連携イベント、ゼミ・団体によるプロジェクト、市民向け講座の3つを柱に以下の活動を行った。また、このうち権田ゼミナールの「まち研カフェ&イベント」が新潟県異業種交流センター主催の「NIKS 地域活性化大賞」において「期待賞」を受賞し高い評価を得た。

- ・「まち研スタンプラリー@商店街」
- ・「まちかど研究室のショーウインドーを利用した風輪通貨の流通活動の紹介写真の展示」
- ・「まちかど研究室 café」
- ・「堀地区の菜園を通した大学生の農業体験と地域住民との交流促進事業」
- ・柏崎市の地域経済に関する調査・研究
- ・「書道とふれあいの会」
- ・「市民向け講座」: クラシック・タタタタン、中国語サロン、戊辰戦争と越後新潟
- ・えんま市、ぎおん柏崎まつりでの出店
- ・ウインターイルミネーション
- ・スペース貸し: 地場産野菜の販売、小中学生の学習支援事業、語学授業
- ・「柏崎に関する研究発表会」での活動報告
- ・facebook ページによる情報発信

② 「かしわざき広域ビジネス応援ネットワーク」に係る活動の推進。

- ・連絡協議会に参加し、構成機関との情報交換を行った。

③ 「共に支え合う域学連携に関する協定書」に基づく活動を継続。

- ・本学教員と学生が荻ノ島集落の持続的な農の里づくりに係る活動と同地区住民との交流活動を行った。

④ 柏崎市の 23 の委員会等に委員を派遣した。

- 1) 柏崎シティセールス推進協議会構成団体参加代表 (北原保雄学長)
- 2) 柏崎市人権教育・啓発推進協議会委員 (秋山正道教授)
- 3) 柏崎市環境審議会委員 (阿部雅明教授)

	<p>4) 柏崎市公益通報等審査委員会委員 (梅澤 精教授)</p> <p>5) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員 (梅澤 精教授)</p> <p>6) 柏崎市立博物館運営協議会委員 (梅澤 精教授)</p> <p>7) 柏崎市男女共同参画審議会委員 (梅比良眞史教授)</p> <p>8) 柏崎市文化財保護審議会委員 (片岡直樹教授)</p> <p>9) 柏崎市都市計画審議会委員 (金 光林教授)</p> <p>10) 柏崎市文化財保護審議会委員 (小林健彦教授)</p> <p>11) 柏崎市指定管理者選定委員会委員 (高橋成夫教授)</p> <p>12) 柏崎市行政改革推進委員会委員 (橋本次郎教授)</p> <p>13) 柏崎市駅前地区市有地活用公募型プロポーザル選定委員会委員 (橋本次郎教授)</p> <p>14) 柏崎市入札監視委員会委員 (星野三喜夫教授)</p> <p>15) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員 (アブドゲニィ アブドレヒミ准教授)</p> <p>16) 柏崎市行政不服審査会委員 (蓮池 薫准教授)</p> <p>17) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員 (宇都宮 仁講師)</p> <p>18) 柏崎市空家等対策計画策定協議会委員 (宇都宮 仁講師)</p> <p>19) 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員 (春日俊雄講師)</p> <p>20) 柏崎市介護保険運営協議会委員 (柏崎市地域包括支援センター運営協議会委員 柏崎市介護保険サービス事業者選定委員会委員兼務) (平野実良講師)</p> <p>21) 柏崎市健康づくり推進会議委員 (平野実良講師)</p> <p>22) 柏崎市スポーツ推進審議会委員 (岡村宜城助手)</p> <p>23) 柏崎リーダー塾運営協議会委員 (加藤秀雄事務局長)</p>
(4)水球のまち柏崎への協力体制	<p>①青柳勸経済学部助手をブルボンウォーターポロクラブ柏崎 (GM) に出向させた。(平成 29 年 4 月～平成 30 年 9 月)</p>
(5)新潟県委託調査	<p>①平成29年度県内就職につながる学びの場づくり支援事業の受託 「新潟の産業・企業を知る講座」を実施した。事業は、座学とフィールドワークで構成し、座学は柏崎をはじめとしたその周辺地域を中心に、さまざまな分野のエキスパート講師を招聘し、充実した授業を展開した。 フィールドワークでは、座学で学んだ基礎知識を活かし、職業現場を体験することで、職業への意識を身に付けるきっかけとすることができた。</p>

2. 7 国際交流

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣 2. 4 留学生支援 (3) ③に詳細を記載。</p> <p>②新潟県国際交流協会交流委員に任命 ベトナム留学生 2 名とモンゴル留学生 1 名が採用され一年間をとおり柏崎地域を含む県内の地域で様々な異文化交流活動を行った。</p> <p>③柏崎地域国際化協会の事業への参加 留学生を派遣し、柏崎一般市民との交流や母国文化や言語紹介の講師として活躍した。また、外国人のための指差し会話手帳に参加し、観光 PR の手助けとなるモンゴル版手帳とベトナム手帳の翻訳を行った。協会主催の「日本のお弁当作り教室」に参加し、日本の食文化に触れた。柏崎総合防災訓練に参加し、災害の予備知識のレクチャーや 171 災害伝言、AED の講習会など、とても貴重な体験をした。</p> <p>④地域の諸団体との交流 刈羽村文化祭で書道を通じて異文化交流を行った。</p> <p>⑤「私の主張 in 産大」の開催 私の主張 in 産大 実行委員会と新潟産業大学留学生交流会主催で、県内留学生や日本人学生、高校生から発表者を募り、10 月 7 日スピーチコンテストを開催した。 参加者は、新潟産業大学留学生が 3 人 (中国) と新潟工科大学留学生、3 人 (中国 2・モンゴル 1) に加え新潟産業大学附属高等学校 2 人 (ケニア 1・中国 1) 合計 8 人が日本語でスピーチを行った。</p> <p>⑥留学生懸賞論文応募指導 柏崎中央ロータリークラブ主催の留学生懸賞論文の募集が行われ、本学より 6 人が応募した。論文のテーマは「留学生から柏崎への提言」としてサブテーマ「暮らし」、「観光」、「経済」、「エネルギー問題」、「柏崎の自然」と 5 項目も設けて実施した。佳作 1 人、努力賞 2 人、参加賞 3 人。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生受入 黒龍江大学 (中国) 1 人、哈爾濱師範大学 (中国) 1 人、集美大学 (中国) 5 人、明道大学 (台湾) 2 人、計 9 人の交換留学生を受け入れた。</p>

3 大学院経済学研究科

3. 1 教育及び研究指導の改善

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)自己点検評価に基づく教育改善	①院生の学修成果の測定を客観的に行うための評価指標の開発に着手した。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの充実	①FD活動の一環として研究報告会を開催した。 日 時：平成 30 年 1 月 10 日(水) 教授会終了後～ テーマ：「新潟産業大学の学生に対する独自アンケート (2017 年 10 月) とその集計結果：大学の公立化に向け学生の「声なき声を」を探る試み」 報告者：江口潜 准教授 大学院担当教員に加え学部教員も研究報告会に参加した。 ②大学院授業改善アンケートの実施 院生の意見や要望の授業への反映、更なる授業改善のために、演習を除く全科目について授業改善アンケートを実施した。後日、研究科長による大学院生へのインタビューを 8 月と 12 月の 2 回実施し、その内容を研究科委員会において報告し、議論した。

3. 2 学生指導

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1)履修指導・研究指導	①院生の幅広い分野にわたる課題研究に対応するため、研究指導教員、研究指導補助教員の間で院生の履修状況、出席状況や研究課題を高度に共有した。 ②院生への履修指導に、授業科目の位置付けや難易度を可視化したナンバリングと履修登録の指針を示した履修モデル表を活用した。

3. 3 学生募集

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1) 学生募集活動の立案と実施	①学部生を対象に学内で大学院進学説明会を 7 月と 12 月の 2 回開催し、入試の概要、授業、修士論文、学費などについて詳細な説明を行った。 ②県内及び近県の社会科学系統大学へ「募集要項」を頒布した。

II 新潟産業大学附属高等学校

1 概況

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指した。部活動においては卓球部が県高等学校総合体育大会学校対抗戦男子で3年ぶりに優勝を果たし、ダブルス、シングルスと共に全種目制覇を達成した。全国高等学校総体では男子学校対抗でベスト16に入った。陸上部は、女子新潟県高等学校駅伝大会で2連覇し、全国高等学校総体棒高跳びでは7位入賞するという輝かしい結果を残した。

進路においては、8年連続で国公立大学への合格や、一般受験で中堅私大に合格するなど確かな学力をつけた。

また、募集活動や広報活動では数多くの中学校訪問を行い、高校説明会の度に、当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう懸命に努力した。

2 部活動実績及び進学実績

事業項目	平成 29 年度実施内容																																						
(1)部活動実績（全国大会レベルに挑戦）	<p>県高等学校総合体育大会に 181 人（昨年度 173 人）が出場し、北信越高等学校体育大会（ゴルフは関東大会）に 103 人（昨年度 60 人）が出場した。インターハイ等全国大会出場者数は延べ 52 人（昨年度 30 人）に達した。</p> <p>①卓球部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新潟県総合体育大会卓球競技 <table border="0"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>優勝</td></tr> <tr><td>女子学校対抗</td><td>2 位</td></tr> <tr><td>男子シングルス</td><td>優勝</td></tr> <tr><td>女子シングルス</td><td>2 位</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>優勝</td></tr> <tr><td>女子ダブルス</td><td>2 位</td></tr> </table> ○北信越高等学校総合体育大会卓球競技 <table border="0"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>5 位</td></tr> <tr><td>女子学校対抗</td><td>出場</td></tr> <tr><td>男子シングルス</td><td>3 位</td></tr> <tr><td>女子シングルス</td><td>出場</td></tr> <tr><td>男子ダブルス</td><td>5 位</td></tr> <tr><td>女子ダブルス</td><td>出場</td></tr> </table> ○全国高等学校総合体育大会卓球競技 <table border="0"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>ベスト 1 6</td></tr> <tr><td>男女シングルス</td><td>出場</td></tr> <tr><td>男女ダブルス</td><td>出場</td></tr> </table> ○国民体育大会 卓球競技 <table border="0"> <tr><td>少年男子</td><td>ベスト 1 6</td></tr> <tr><td>少年女子</td><td>出場</td></tr> </table> ○北信越高等学校選抜卓球大会 <table border="0"> <tr><td>男子学校対抗</td><td>6 位</td></tr> </table> ○全日本卓球選手権大会 <table border="0"> <tr><td>男子ジュニア</td><td>出場</td></tr> </table> 	男子学校対抗	優勝	女子学校対抗	2 位	男子シングルス	優勝	女子シングルス	2 位	男子ダブルス	優勝	女子ダブルス	2 位	男子学校対抗	5 位	女子学校対抗	出場	男子シングルス	3 位	女子シングルス	出場	男子ダブルス	5 位	女子ダブルス	出場	男子学校対抗	ベスト 1 6	男女シングルス	出場	男女ダブルス	出場	少年男子	ベスト 1 6	少年女子	出場	男子学校対抗	6 位	男子ジュニア	出場
男子学校対抗	優勝																																						
女子学校対抗	2 位																																						
男子シングルス	優勝																																						
女子シングルス	2 位																																						
男子ダブルス	優勝																																						
女子ダブルス	2 位																																						
男子学校対抗	5 位																																						
女子学校対抗	出場																																						
男子シングルス	3 位																																						
女子シングルス	出場																																						
男子ダブルス	5 位																																						
女子ダブルス	出場																																						
男子学校対抗	ベスト 1 6																																						
男女シングルス	出場																																						
男女ダブルス	出場																																						
少年男子	ベスト 1 6																																						
少年女子	出場																																						
男子学校対抗	6 位																																						
男子ジュニア	出場																																						

	女子ダブルス	出場
○全国高等学校選抜卓球大会	男子学校対抗	出場
	女子シングルス	5位
②陸上競技部		
○新潟県高等学校総合体育大会		
入賞21種目	男子	100m・110mH・4×100mR 走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳 砲丸投・円盤投・やり投
	女子	400m・3000m・5000mW 4×100mR・走高跳・棒高跳 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投・七種競技
※学校対校	男子	2位
	女子	3位
○北信越総合体育大会		
	男子	4×100mR 6位 棒高跳 優勝・3位・4位 走幅跳 4位 やり投 8位
	女子	3000m 3位 5000mW 2位 走高跳 4位 棒高跳 7位
※学校対校	男子	7位
○全国高等学校総合体育大会		
	男子	棒高跳 7位入賞
	女子	5000mW 10位
		4×100mR・走幅跳 出場 3000m・走高跳 出場
○全国選抜大会		
	男子	3000mW 3位
	女子	3000mW 4位
		2000mSC 出場
○新潟県選抜陸上競技大会		
優勝	8種目	男子 棒高跳・走幅跳・三段跳・円盤投・やり投 女子 3000m・棒高跳・円盤投
入賞28種目	男子	100m・400m・110mH・4×100mR R・4×400mR・走高跳・棒高跳・走幅跳・ 三段跳・砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投・ 八種競技
	女子	100m・1500m・3000m・5000mW W・4×100mR・4×400mR・走高跳・ 棒高跳・三段跳・砲丸投・円盤投・ハンマー投・ やり投・七種競技
※学校対校	男子	優勝
	女子	2位
○国民体育大会(愛媛)		
	少年A棒高跳	少年A走幅跳
		新潟県代表
○北信越新人大会		
	男子	100m 5位 4×100m 4位 4×400mR 6位 走高跳 3位 棒高跳 優勝 大会新 走幅跳 優勝 大会新 三段跳 3位 砲丸投 7位

円盤投 4位
やり投 優勝
女子 棒高跳 3位
砲丸投 7位
円盤投 2位

○U18日本陸上競技選手権大会

女子 円盤投 7位

○新潟県高等学校総合体育大会 駅伝競走大会 女子 優勝

○北信越総合体育大会 駅伝競走大会 女子 5位

○全国高等学校駅伝競走大会 女子 37位

③ソフトテニス部

○県高等学校総合体育大会 男子団体戦 3位

女子団体戦ベスト8

男子個人戦 7位

女子個人戦ベスト16

○北信越高等学校体育大会 男団体戦、男女個人戦に出場

④ゴルフ部

○第19回 新潟県ジュニア選抜競技会 2位 3位

○第20回 新潟県女子アマチュアゴルフ選手権 総合の部 2位

○平成29年度第70回 新潟県高等学校総合体育大会ゴルフ大会
男子個人の部 優勝

○平成29年度第70回 新潟県高等学校総合体育大会ゴルフ大会
男子団体の部 2位

○平成29年度 関東高等学校ゴルフ選手権男子決勝大会
第51回個人の部 36位

○平成29年度 全国高等学校ゴルフ選手権大会
高校男子 個人の部 117位

○第20回 新潟県ジュニアゴルフ競技会
高校男子の部 優勝 2位

○第43回 新潟県アマチュアゴルフ選手権 優勝 2位

⑤水泳部

<競泳>

○新潟県高等学校選手権水泳競技大会

女子100m背泳ぎ 3位

女子200m背泳ぎ 4位

女子200m個人メドレー 1位

女子400m自由形 8位

女子400m個人メドレー 1位

女子800m自由形 8位

○北信越高等学校体育大会

女子200m背泳ぎ 7位

女子200m個人メドレー 1位

女子400m個人メドレー 7位

○全国高等学校総合体育大会・日本高校選手権水泳競技大会（インタ

	<p>ーハイ) に女子 1 名が出場</p> <p><ライフセービング></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全日本ユース選手権大会 <ul style="list-style-type: none"> 高校女子ボードレース 4 位 高校女子サーフレース 2 位 ○全日本選手権大会 <ul style="list-style-type: none"> レスキューチューブレスキュー 6 位 オーシャンウーマンリレー 6 位 ○全日本ユース・プール競技会 <ul style="list-style-type: none"> 高校女子 50m マネキンキャリー 4 位 高校生女子 100m トウインズフィン 1 位 <p><水球></p> <ul style="list-style-type: none"> ○北信越高等学校春季水球競技大会 準優勝 ○北信越高等学校選手権水球競技大会 3 位 ○北信越高等学校水球競技新人大会 準優勝 <p>⑥男子バスケットボール部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 70 回全国高等学校バスケットボール選手権大会新潟県予選会 3 位 ○第 46 回 BSN 杯高等学校バスケットボール大会 3 位 <p>⑦女子バスケットボール部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県高等学校総合体育大会 3 位の成績を収め、北信越大会に出場 ○全国高等学校選抜優勝大会新潟県予選会 3 位 <p>⑧サッカー部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県高等学校総合体育大会 ベスト 32 ○全国高校サッカー選手権大会新潟県大会 ベスト 16 ○高円宮杯 U-08 サッカーリーグ 2017 新潟県リーグ 1 部 6 位
<p>2) 進学実績 (大学・短期大学進学率 53.7%、専修学校 20.8%)</p>	<p>進学実績 (大学・短期大学進学率 53.7%、専修学校 20.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※昨年度大学・短期大学進学率 55.9%、専修学校 23.4% ①4 年制大学進学率は 52.8%であった。 ※昨年度大学進学率 46.9% ②8 年連続で国公立大学合格者を輩出した。 ③指定校推薦だけでなく、一般受験での合格も見られた。 <p>取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①夏期特進講座 (5 日間、国語 5 時間、数学 5 時間、英語 5 時間)・冬期特進講座 (5 日間、国語 5 時間、数学 5 時間、英語 5 時間)・サマーゼミ (2 泊 3 日の学習合宿、国語 5 時間、数学 5 時間、英語 5 時間、個別指導等 6 時間)・春期特進講座 (5 日間、国語 5 時間、数学 5 時間、英語 5 時間) は前年度と同様に計画・実施した。

	<p>サマーゼミは、全学年を対象に北志賀高原にて実施した。</p> <p>②大学進学プログラム 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に向けた学力向上を図った。</p> <p>③高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施 1年生のフレッシューズセミナー等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施できた。</p>
--	---

3 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

事業項目	平成 29 年度実施内容
(1) 生徒への支援	<p>【教務部】</p> <p>《今年度の重点事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度新教育課程の編成 ・低学力者等のための支援教育体制の確立 ・有効な広報活動計画の作成 ・適切な教育環境の充実 ・平成30年度入学試験の改革 <p>《具体的な取り組み》</p> <p>①新学習指導要領を踏まえた教育課程を編成した。</p> <p>②授業以外の学習習慣がない生徒が相当数おり、定期考査等で成功体験を味わわせて自信につながるように出題内容や方法に工夫をした。</p> <p>③学校案内を一部改訂し、見易いものにした。オープンスクールにもできるだけ多くの中学生、保護者に参加してもらうよう工夫した。</p> <p>④電子黒板（固定式3台、移動式2台）を利用した授業を行った。</p> <p>⑤スポーツ特別推薦、学業特別推薦、部活動専願の3つの入学試験について試験内容、出願条件を変更した。</p> <p>《結果》</p> <p>①より多くの時間をかけて議論すべきだった点もあるが、6月初旬に完成し、平成30年度の学校案内に掲載した。</p> <p>②一部の生徒が学習に前向きに取り組み始めたが、全体的には不十分と言わざるを得ない。</p> <p>③観音開き8頁から冊子16頁に変更し内容を充実させたことにより高い評価を得た。柏崎・刈羽地区の中学校卒業生徒数が減少する中、オープンスクールには第1回・2回と合わせて、例年並みの参加数を確保できた。</p> <p>④準備には時間がかかるが、視聴覚に訴えることができるため、生徒の授業への集中力が増した。</p> <p>⑤特に問題点が指摘されておらず、本校の今後の入学試験の方向性を示す改革となった。</p>

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ・ 規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ・ 生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ・ 制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

① 基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と転・退学者の防止

保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。

HR担任を中心とした教育相談を充実させる。

② 校内規律の確立（制服・頭髪・言葉遣い）と社会のルールの遵守、制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し改善させた。また登下校時の制服の着用を徹底させた。

③ 学業に不必要な物品等を持ち込まない指導

ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。特にSNSでのトラブルが起きないように指導した。

④ 立哨指導、巡視指導

生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導を学期ごとの始めに実施した。

授業巡視や授業中にチェックシートを使い、生徒指導を行った。

⑤ 長期休業の事前指導

夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。

⑥ 生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施

⑦ シャツ出し禁止、スカートの正しい着用、ネクタイの正しい着用等の身だしなみの取り組みを年間通して指導をした。

《結果》

① 無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。

② 頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。

③ 授業姿勢、雰囲気向上し、生徒教師共に相乗効果があった。

④ 挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。

⑤ 長期休業中は事故・事件はなかった。

⑥ 北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場した。

⑦ 正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はル

ール遵守の重要性が理解できた。

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・大学等進学率 70%以上を目指す。
- ・国公立大学や難関私立大学合格者数の増加
- ・新潟産業大学への進学者の増加
- ・就職内定率 100%を目指す。

《具体的な取り組み》

①進路の手引きの改訂

②資料の蓄積・整理と生徒への激励

③カレッジコースの1年から3年までの一貫した進路指導

④大学進学者の増加策

ア. 教務部と協力し、朝学習（小テスト）や大学進学プログラムの実施

イ. カレッジコースだけでなく、校長推薦大学等進学者にもセンター試験を受験させる。

ウ. 国公立大学や難関私立大学の合格者を増やすために、学力の高い生徒に対し志望校を早期設定させ、推薦選抜入試対策として、必要な小論文・面接指導等の早期指導をする。

エ. ラーナズクラブの強化。（勉強をしたい生徒を集め、運動部がインターハイを目指すのと同様に、第1志望の大学に合格することを目標として活動し、国公立大学や難関私立大学の合格者増につなげる）

オ. 各教室に進学コーナー用本棚を設置する。（早期の進学意識の啓発）

カ. 大学進学に意欲ある生徒を発掘し、個別指導を徹底

キ. 「受験サプリ」を有効に活用し、受験学力の向上を図る。

⑤履歴書に書ける特技や資格を身につけさせる。

⑥積極的な求人先の開拓と就職内定への指導の徹底

⑦ファインシステムの活用（ベネッセコーポレーション）

ア. 学年・教科分析

イ. クラス成績分析

ウ. 個人成績分析

⑧広報による啓発活動

《結果》

①進路の手引きを改定し、全校生徒・保護者に配布した。進路希望調査は学期毎に実施したが、教師の指導もあり全体的に進学志向が高まった。

②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース造りや資料の蓄積と整理をしたことから、利用する生徒が増えた。

センター試験激励会を開催し、試験前日は校内で、盛大に受験生の激励を行ない、試験当日も会場で激励を行った。

③カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎にし、モチベーションを高めた。

④大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナズクラブ（勉強部）を指導し

	<p>て大学進学者数の底上げを図り、国公立大学へは1名、一般入試では中堅私大に合格することができた。</p> <p>「ベネッセの学習支援サービス」(classi)に加入し、何時でも何処でも学習できる環境を備えることができた。</p> <p>「サマーゼミ(学習合宿)」を実施し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。</p> <p>⑤履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励し、「5t未満クレーン」「アーク溶接」「低圧電気」等の資格を取得させた。</p> <p>「手話講座」を行い、柏崎市職員の方から指導を受け、基本的な範囲であるが特技の一つとして体得した。</p> <p>⑥新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。また、学校長からの紹介により、新しいパイプも増えた。</p> <p>就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。校内開催のハローワーク相談室では、職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスIにおいては、就職試験までのプロセスや就職試験の厳しさ等の説明をし、気を引き締める機会となった。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスIIでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身に付けたことから、求職者全員が内定した。</p> <p>就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、キャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。</p> <p>⑦ベネッセの模擬試験によるデータを活用しながら、生徒個々の進路指導に役立てることができた。</p> <p>⑧進路指導ニュース「部活で燃えろ進路で輝け」を入学式、卒業式等に発行し、保護者の進路に対する意識付けを行い、本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。</p>
--	--

4 生徒募集

事業項目	平成29年度実施内容
(1) 中学校訪問の強化 (長岡・上越地域の生徒の増加のために)	<p>中学校訪問は、午後から授業のない考査期間中に4回実施した。</p> <p>○第1回中学校訪問(広報活動、情報収集)</p> <p>6月29日(木)、30日(金)、7月3日(月) 79校(昨年度79校)</p> <p>柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p> <p>○第2回中学校訪問(生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内)</p> <p>10月11日(水)、12日(木) 79校(昨年度79校)</p> <p>柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p> <p>○第3回中学校訪問(推薦・第一次・部活動専願入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動)</p> <p>11月24日(金)、11月27日(月) 79校(昨年度79校)</p> <p>柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p>

	<p>○第4回中学校訪問（第二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第1次・部活動専願入試の報告）</p> <p>2月23日（金）、26日（月） 79校（昨年度79校）</p> <p>柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、出雲崎、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川、燕</p>
<p>(2) 高校説明会（中学校からの依頼参加）</p>	<p><柏崎・刈羽地区（13校）13回></p> <p>①6月12日（月）柏崎市立鏡が沖中学校</p> <p>②6月13日（火）柏崎市立瑞穂中学校</p> <p>③6月16日（金）刈羽村立刈羽中学校</p> <p>④6月20日（火）柏崎市立北条中学校</p> <p>⑤6月21日（水）柏崎市立第三中学校</p> <p>⑥6月22日（木）柏崎市立第二中学校</p> <p>⑦6月23日（金）柏崎市立第一中学校</p> <p>⑧6月26日（月）柏崎市立第五中学校</p> <p>⑨6月27日（火）柏崎市立西山中学校</p> <p>⑩7月7日（金）柏崎市立松浜中学校</p> <p>⑪7月11日（火）柏崎市立高柳中学校</p> <p>⑫7月12日（水）柏崎市立東中学校</p> <p>⑬7月13日（木）柏崎市立南中学校</p> <p><長岡地区（6校）6回></p> <p>①6月2日（金）長岡市立越路中学校</p> <p>②6月14日（水）長岡市立宮内中学校</p> <p>③6月16日（金）長岡市立青葉台中学校</p> <p>④7月6日（木）長岡市立南中学校</p> <p>⑤7月7日（金）長岡市立小国中学校</p> <p>⑥7月12日（水）長岡市立岡南中学校</p> <p><上越地区（11校）11回></p> <p>①6月15日（木）上越市立大潟町中学校</p> <p>②6月16日（金）上越市立春日中学校</p> <p>③6月16日（金）上越市立城東中学校</p> <p>④6月22日（木）上越市立柿崎中学校</p> <p>⑤6月23日（金）上越市立三和中学校</p> <p>⑥6月27日（火）上越市立直江津中学校</p> <p>⑦6月30日（金）上越市立吉川中学校</p> <p>⑧7月3日（月）妙高市立新井中学校</p> <p>⑨7月12日（水）上越市立城西中学校</p> <p>⑩7月20日（木）上越市立雄志中学校</p> <p>⑪9月29日（金）上越市立中郷中学校</p> <p><十日町・小千谷・魚沼地区（4校）4回></p> <p>①6月26日（月）湯沢町立湯沢中学校</p> <p>②7月7日（金）小千谷市立東小千谷中学校</p> <p>③7月11日（火）十日町市立中里中学校</p> <p>④7月12日（水）魚沼市立広神中学校</p>

<p>(3) 中学校教師対象入試説明会</p>	<p>9月15日(金) 19校 19人 (平成28年度18校 18人参加) 柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、高柳中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立関原中学校、東北中学校、西中学校、越路中学校、小国中学校、上越市立直江津東中学校</p>																																																												
<p>(4) 学校見学会 (オープンスクール)</p>	<p>○第1回学校見学会 7月8日(土) (部活動体験、産附弁当配付) 54人 (昨年度129人) ○第2回学校見学会 10月13日(金) (授業・部活動体験、産附弁当配付) 213人 (昨年度162人) ○個別見学会 随時 (校舎・授業見学) (参考) 学校見学会参加者数 平成15年度 50人、平成16年度 86人、平成17年度 56人、平成18年度 76人、平成19年度 90人、平成20年度 168人、平成21年度 170人、平成22年度 145人、平成23年度 242人、平成24年度 269人、平成25年度 280人、平成26年度 237人、平成27年度 237人、平成28年度 291人、平成29年度 267人 学校見学会には、多くの中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、本校についての理解を深めてもらった。</p>																																																												
<p>(5) 募集結果 (平成30年度入試)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>募集学級</th> <th>募集定員</th> <th>区分</th> <th>志願</th> <th>受験</th> <th>合格</th> <th>入学 手続</th> <th>入学 許可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">普通</td> <td rowspan="8">4</td> <td rowspan="8">160</td> <td>学業特別推薦</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>スポーツ特別推薦</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>一次(専願)</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>部活動専願</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>併願推薦</td> <td>232</td> <td>232</td> <td>232</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>一般併願</td> <td>125</td> <td>124</td> <td>120</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>二次</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>520</td> <td>519</td> <td>513</td> <td>162</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table>	学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可	普通	4	160	学業特別推薦	22	22	22	1	1	スポーツ特別推薦	76	76	76	75	75	一次(専願)	46	46	46	46	46	部活動専願	15	15	14	14	14	併願推薦	232	232	232	7	7	一般併願	125	124	120	16	16	二次	4	4	3	3	3	計	520	519	513	162	162
学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可																																																					
普通	4	160	学業特別推薦	22	22	22	1	1																																																					
			スポーツ特別推薦	76	76	76	75	75																																																					
			一次(専願)	46	46	46	46	46																																																					
			部活動専願	15	15	14	14	14																																																					
			併願推薦	232	232	232	7	7																																																					
			一般併願	125	124	120	16	16																																																					
			二次	4	4	3	3	3																																																					
			計	520	519	513	162	162																																																					

5 新規取組事項

- (1) 創立60周年記念式典・講演・祝賀会を挙行了。
- (2) 創立60周年記念事業として、ウェイト場にラットプルマシン2台、ホームジム2台、トレーニングベンチ2台、スピンバイク2台を整備した。
- (3) 講堂棟の冷水機1台の入替を行った。
- (4) 平成29年度卒業記念事業として、冷水機3台、スタッキングチェア160脚を整備した。
- (5) 入学金の改定

第 3 部 財務の概要

資金収支計算書

平成29年4月1日から

平成30年3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	568,813,000	568,591,018	221,982
手数料収入	8,870,000	9,464,810	▲ 594,810
寄付金収入	27,402,000	27,870,112	▲ 468,112
補助金収入	354,370,000	352,462,265	1,907,735
国庫補助金収入	134,533,000	134,785,096	▲ 252,096
地方公共団体補助金収入	219,837,000	217,446,741	2,390,259
資産売却収入	0	13,097	▲ 13,097
付随事業・収益事業収入	24,258,000	23,634,200	623,800
受取利息・配当金収入	31,000	30,607	393
雑収入	95,334,000	96,920,243	▲ 1,586,243
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	59,257,000	79,353,168	▲ 20,096,168
その他の収入	224,002,634	173,258,301	50,744,333
資金収入調整勘定	▲ 147,452,168	▲ 155,735,697	8,283,529
前年度繰越支払資金	556,586,042	556,586,042	0
収入の部合計	1,771,471,508	1,732,448,166	39,023,342
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	713,977,000	710,743,699	3,233,301
教育研究経費支出	367,579,000	354,849,411	12,729,589
管理経費支出	99,193,000	93,879,663	5,313,337
借入金等利息支出	47,000	46,914	86
借入金等返済支出	2,353,000	2,352,200	800
施設関係支出	540,000	0	540,000
設備関係支出	5,730,000	2,695,891	3,034,109
資産運用支出	77,312,000	71,119,935	6,192,065
その他の支出	163,661,733	109,238,646	54,423,087
[予備費]	(0)		19,200,000
資金支出調整勘定	▲ 17,918,798	▲ 19,368,788	1,449,990
翌年度繰越支払資金	339,797,573	406,890,595	▲ 67,093,022
支出の部合計	1,771,471,508	1,732,448,166	39,023,342

事業活動収支計算書
平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	568,813,000	568,591,018	221,982
		手数料	8,870,000	9,464,810	▲ 594,810
		寄付金	29,747,000	28,519,480	1,227,520
		経常費等補助金	354,370,000	352,462,265	1,907,735
		国庫補助金	134,533,000	134,785,096	▲ 252,096
		地方公共団体補助金	219,837,000	217,446,741	2,390,259
		付随事業収入	24,258,000	23,634,200	623,800
		雑収入	95,454,000	100,795,410	▲ 5,341,410
		教育活動収入計	1,081,512,000	1,083,467,183	▲ 1,955,183
		教育活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算
人件費	700,569,000			707,198,269	▲ 6,629,269
教育研究経費	446,079,000			434,106,130	11,972,870
管理経費	118,593,000			111,701,457	6,891,543
徴収不能額等	0			3,620,000	▲ 3,620,000
教育活動支出計	1,265,241,000			1,256,625,856	8,615,144
教育活動収支差額	▲ 183,729,000			▲ 173,158,673	▲ 10,570,327
教育活動外収入の部	事業活動外収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	31,000	30,607	393
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	31,000	30,607	393
		科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金利息	47,000	46,914	86
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	47,000	46,914	86		
教育活動外収支差額	▲ 16,000	▲ 16,307	307		
経常収支差額		▲ 183,745,000	▲ 173,174,980	▲ 10,570,020	
特別収入の部	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	769,000	2,228,373	▲ 1,459,373
		特別収入計	769,000	2,228,373	▲ 1,459,373
		科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	1,666,000	1,664,884	1,116
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	1,666,000	1,664,884	1,116		
特別収支差額	▲ 897,000	563,489	▲ 1,460,489		
〔予備費〕		(0)		18,200,000	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 202,842,000	▲ 172,611,491	▲ 30,230,509	
基本金組入額合計		▲ 7,386,000	▲ 2,640,303	▲ 4,745,697	
当年度収支差額		▲ 210,228,000	▲ 175,251,794	▲ 34,976,206	
前年度繰越収支差額		▲ 2,991,073,927	▲ 2,991,073,927	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 3,201,301,927	▲ 3,166,325,721	▲ 34,976,206	
(参考)					
事業活動収入計		1,082,312,000	1,085,726,163	▲ 3,414,163	
事業活動支出計		1,285,154,000	1,258,337,654	26,816,346	

貸借対照表

平成30年3月31日

<学校法人柏専学院>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	3,378,509,121	3,428,475,932	▲ 49,966,811
有形固定資産	2,917,768,942	3,010,951,803	▲ 93,182,861
特定資産	454,032,596	410,764,545	43,268,051
その他の固定資産	6,707,583	6,759,584	▲ 52,001
流動資産	505,575,107	698,037,687	▲ 192,462,580
資産の部合計	3,884,084,228	4,126,513,619	▲ 242,429,391
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	380,099,679	389,752,476	▲ 9,652,797
流動負債	119,312,375	179,477,478	▲ 60,165,103
負債の部合計	499,412,054	569,229,954	▲ 69,817,900
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,550,997,895	6,548,357,592	2,640,303
第1号基本金	6,461,997,895	6,459,357,592	2,640,303
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	4,000,000	4,000,000	0
第4号基本金	85,000,000	85,000,000	0
繰越収支差額	▲ 3,166,325,721	▲ 2,991,073,927	▲ 175,251,794
純資産の部合計	3,384,672,174	3,557,283,665	▲ 172,611,491
負債及び純資産の部合計	3,884,084,228	4,126,513,619	▲ 242,429,391